

美帆 進化止まらず

押切 2位 神谷 3位 十勝勢が表彰台独占

全日本スプリントスケート

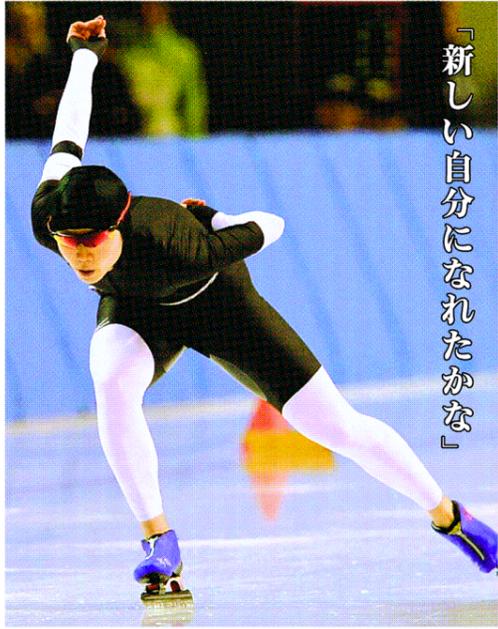
スピードスケートの第40回 最終日は30日、明治北 回春日本スプリント選手権 海道十勝オーバルで男女4 大会(日本スケート連盟主催)が行われ、高木美帆、 十勝勢女子の制覇は、長屋 真紀子(三協精機、陸別出 設)が入り、十勝勢が地元



スプリント女子総合表彰でトロフィーを手に笑顔をみせる2位の押切美沙紀(優勝の高木美帆、3位の神谷衣理那(左から))

挑戦の姿勢で自己新連発

ゴールを駆け抜けて女子 1000mの連勝を電光石火で確認する、高木美帆は一呼吸してからゆっくり両手を突き上げた。「ベストを尽くそうと思って、結果として優勝できた。驚いてる部分はあるが、スゴい自分になれたかな」



【女子1000m・2回目】1分16秒20で1位となり、初の総合優勝を決めた高木美帆

大和田司 安定感で頂点

大和田司が男子総合で初優勝し「素直にうれし」と安堵(あんど)の表情を浮かべた。単種目の1位はなかったが安定感が光った。この日の500mでは35秒51の国内自己ベストを記録して5位。この種目1位の及川佑に総合首位を奪われ2位に下がったが、最終種目の1000mで意地を見せた。



【男子1000m・2回目】3位に入った大和田司は、初日の首位をキープしたまま総合優勝を飾った

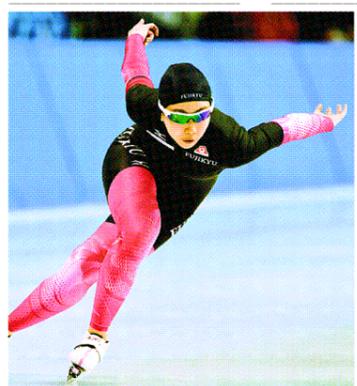
前組で転倒があり「動揺した」というが、600mまでのタイムが42秒79と全体の3番目で駆け抜けた。貯金をつくった。同走の及川を突き放して前日の

まな娘に贈るメダル 及川



【男子500m・2回目】35秒12の大会新記録で1位となった及川佑

20日に第1子となる女児が生まれたばかり。「昨秋に結婚した直後も勝てた。子供から力をもらえていますね」と笑顔。500mの金メダル2個と総合の銅メダルがまな娘への最初のプレゼントとなった。



【女子1000m・2回目】ホームストレートで加速し、ナーナへ入る押切美沙紀

今回の成績で昨年の後半戦から3連勝となるW杯代表入りが決定した。「レースの入り方のスピードが課題。余裕で代表に選ばれるぐらいの力を付けた」とレベラアップを誓った。

「新しい自分になれたかな」

「昨シーズンは納得いかないレースが多かった。今季は復活というより新しい自分になれたかな。常に刺激を受け、挑戦する姿勢が好結果を生んでいる。来年も思いは変わらない。調子がいい時に何かを変えるのは怖いものだが、さらに先へ進みたい。スケート界のヒロインの進化は止まらない。」

身、島崎京子(三協精機 白樺学園高)以来18大会ぶり3人目。総合4位には押切美沙紀(富士急、駒大苫小牧高、中札内中出)、大、池田高出、が食い込んだ。3位は神谷衣理那(高堂建設)が入り、十勝勢が地元

Table with 4 columns: Rank, Name, School, Time. Includes results for 500m, 1000m, and 1500m for both men and women.

世界S楽しみ

女子500mで連続1位、総合3位の神谷衣理那の話。500mは(高木美帆との同走で最初の1000mで負けてしまった。もつと差をつけて勝たないといけない。1000mの滑りは課題。ラストの持久力が問題だと思っただけで、今年はスケートが楽しいと充実の時を迎えている。世界スプリント出場は初めてなので楽しみ。

世界S楽しみ

今季はオランダ人コーチの指導で長距離だけではなく、男子選手の後ろに付いての短距離も熱心になしてきた。「スプリント能力があがってきたことが実感できた」。高木同様、滑るたびに記録が向上。「コーナーが上達している。昨季は思うようにいかない1年だったが、今年はスケートが楽しい」と充実の時を迎えている。世界スプリント出場は初めてなので楽しみ。

代表に高木美ら

世界距離別 日本スケート連盟は30日、今季後半の国際大会に出場する日本代表選手を発表した。来年の世界スプリント選手権(2月27、28日、韓国ソウル)には押切美沙紀と神谷衣理那の出場が決まった。高木美帆は日程が近い世界オールラウンド選手権(3月5、6日、ドイツベルリン)に集中するため出場を辞退した。世界距離別選手権(来年3月3、4日、ロシアノルウェー)に集中するた

Table with 4 columns: Rank, Name, School, Time. Includes results for 500m, 1000m, and 1500m for both men and women.